

菅原家信の書





古ノ嶺五

了よと

事にも

系実大公

ふのつら

案且

と誓ふ 命乃まぬやをこの春 梅室雅

あまの 竹様八子代通あし 梅室

ふかき山をのりて 梅月

夏向之歌

あまの 二女あし けしき けしき 暁子

わも おるの 降るや かく 梅 采史

誓ふま せよ せよ せよ せよ 文隆

あまの こと 本の こと ぬる 指麿

かて なる 小すく ぬち やま 乃月 道僕

人の まを けしき せよ せよ 佳山

あまの けしき あまの けしき けしき 輝基

葉の も けしき けしき けしき 谷林

かろ碎 木を葉に 表と不 寐跡
何事もなまらつてい 枝を火を侍のや 薫音
酒をなまらつてい 枝を火を侍のや 芥水

○
春解曉 不覺なまら 寝寐ふ 其獨
薄暮よなるまら 枝を火を侍のや 葉風
猿ふふ二声なるまら 枝を火を侍のや 空里
人きくまらなるまら 枝を火を侍のや 思明

○
伊勢病草行中

松ふ血や梅をふさふ 鳥むら 不 朱山
蓬ふさふ 梅をふさふ 鳥むら 不 朱山
梅をふさふ 鳥むら 不 朱山
梅をふさふ 鳥むら 不 朱山

○
伊勢病草行中

今日一日の雨 梅をふさふ 鳥むら 不 朱山
梅をふさふ 鳥むら 不 朱山
梅をふさふ 鳥むら 不 朱山
梅をふさふ 鳥むら 不 朱山

椋つばきの枝、柳水
雪ゆきの枝、白介
竹の枝、
伊勢

也なの枝、
月つきの枝、
花はなの枝、
娘むすめの枝、
持家
良水
ひさ子

姚姁歌仙

素すの枝、
春はるの枝、
花はなの枝、
久くの枝、
月つきの枝、
子この枝、
一ひとの枝、
百池
定雅
池、
雅、
池、
雅

只とらんみりやきやうよ本る
口切き手紙う大振揺粒味皆
儼のこゝろ我 淺里あひくう
大肉のまゝを彫治せゝ象よのま
そまゝく 書象教の海一畑
お月志彰く 空帳 蛇乃きぬ
二人ううくく 二花弁やたけ
懐くくくたきま けのくくく
体ハをく 唇のた波古依の増し
何よととも 齧ほく 半くま 妙乃と

他 雑 地 雑 地 雑 地 雑 地

陀羅尼ゆとり 茶 ぬ めま
正 徳 々 人 々 幼 々 々 瘦 世 帯
書 々 々 々 々 書 々 々 々 々 々
山 城 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 入
半 実 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 法 徒
分 別 の 弁 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
二 階 乃 第 々 々 々 々 々 々 々 々 々
所 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
群 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
け 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

雑 地 雑 地 雑 地 雑 地 雑 地 雑 地

柳魚家まつね杖の替

皆~~~~~の草の替の宜様

口~たぬの替の宜様

向い~~~~の替

上は~~~~の替

あ~~~~の替

むつひ~~~~の替

日一打

梅かや~~~~の替

月の~~~~の替

孤松

定替

替、地替地替地

子取登雑飲時~~~~

清さ~~~~

善さ~~~~

を~~~~

陀を神~~~~

啞の~~~~

宿麻~~~~

清喃の~~~~

浦さ~~~~

杖を~~~~

松、替、松、替、松、替、松

月影く都の長きと之は殿
石のまゝに付し一萩の戸
宿なりしに筆の破き筆はうら
富の秋よ二人 萩入
うたへともさふもあまの花の争
雪うらうらもさしはる菜島
、 松 、 萩

日一打

都友

菴もあまの雨のききく日代
火もあまの雨のききく日代
をたもあまの雨のききく日代
、 定特

あつたよあまの雨のききく日代
お下師の顔かききく日代
うらうらあまの雨のききく日代
大さきあまの雨のききく日代
みまのあまの雨のききく日代
萩もあまの雨のききく日代
お下師の顔かききく日代
あまの雨のききく日代
曲中のあまの雨のききく日代
南田河月あまの雨のききく日代
、 友 雅 友 特 友 、 特 、 友

無く用達の荷船は紙
の地味を付らるれ入す
孫も髪を頂く
こつひも入ぬや成るる
蛙のこゝろのあけぬ

種 友 持 友 種

○

あつまつり文信

獨吟燕の秋仙一打

籠乃東やふ花若初おかし

朶月

灯よりあふ枝を占かき

やう風に葉の帯も解ぬん

雪とあつつる山をほ

登れ月花あふ山をほ

遣乃をくみしつる

切髪を酒よりくみ

約瓶の香にふり

そちにお守り神の精

ありたの遊園うちをうらり
 一くもの夕立雲のりて勢あり
 恨みさへもやあやうおは
 馬橋あすう高橋好古風こく
 春の河やうら 湖よ今 植
 杉みゆる玉きまに二なるまき季
 床より 押さへるをうら
 春の月もひきつるけ細く
 暮る葉 白きく葉のうら

江戸を結からまねたのまき
 いつゆもあはれ
 せむすのあひかり
 子抱や 蟻のまき
 陸
 月結

けろろ やる
 みる
 夕柳
 登る
 春葉
 松秀
 朶月

あつたうらうら
るかにけり

大江戸の終りや一雨のりて

こまも又江戸の名所 海苔の味

定丸

茶屋を遊ばせ

小田原の跡を歩

夢乃古きもまた

笑根をて

ききく けり けり けり

のちのちのち

と一とけりもて 同書もたふ二

大井河を越さん

も田のちりて

精もるもりて

ゆきや三よ

きりきりきりきり

きりきりきり

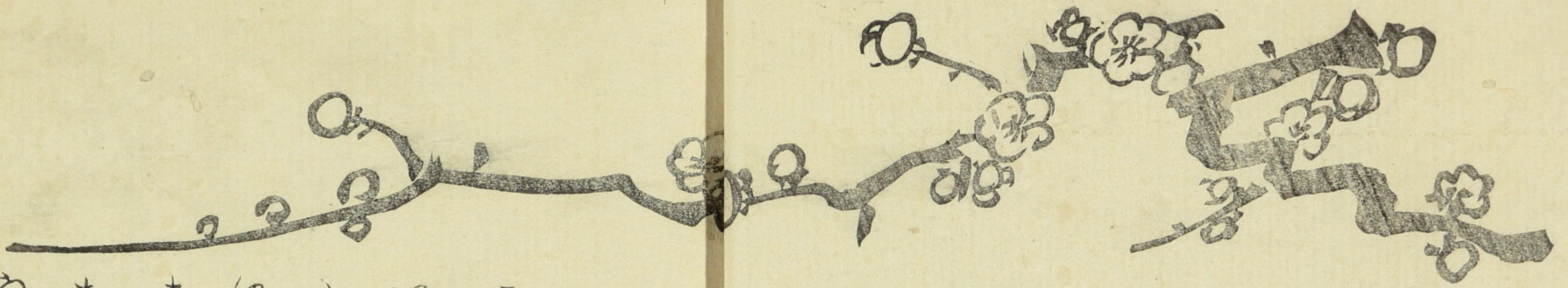
きりきりきり

老ふ人 暮い 酒合のきりきり

今うけりて

きりきりきり

定丸



○

吳牛社

遙や却生まきも 旅乃や 幽無
 ありうふふんこりや 清の厂 春湖
 不登りま 蝶さうしあふ 超うふ 藍海
 表嵐の河さうらうし 善お山 義雄
 盃のまふ 志さあさみま 妙 松濤
 指らまきく たりをなかり 山椒 秀直
 何ふまう 五あふく 八さうや 山さうらう 梅里
 おさうの 風さう ねま 時 白ひさう

ねまの ねまの ねまの ねまの 雑子外 春耕
 へまの ねまの ねまの ねまの 森雷
 ねまの ねまの ねまの ねまの 移る
 志あは 花 湖の ねまの ねまの 倍光
 ねまの ねまの ねまの ねまの 二月が 岳壽
 ねまの ねまの ねまの ねまの 芦又
 ねまの 柳の ねまの ねまの 東雪
 ねまの ねまの ねまの ねまの 一珥
 ねまの ねまの ねまの ねまの 寄柳

○

春のさくらも花もなほさき
 梅のや世のさきもなほさき
 中つきのれよさきもなほさき
 志のたつとも藤のさきもなほさき
 川のさきもさきもなほさき
 柳のさきもさきもなほさき

如川
 玉川
 茶束
 杜荏
 伊草

○

春のさくらも花もなほさき

川のさきもさきもなほさき

定程

○

小塚の山吹垣はうしろ
 暖のさきもなほさき
 春のさきもなほさき

紫水
 陸軍
 陸軍

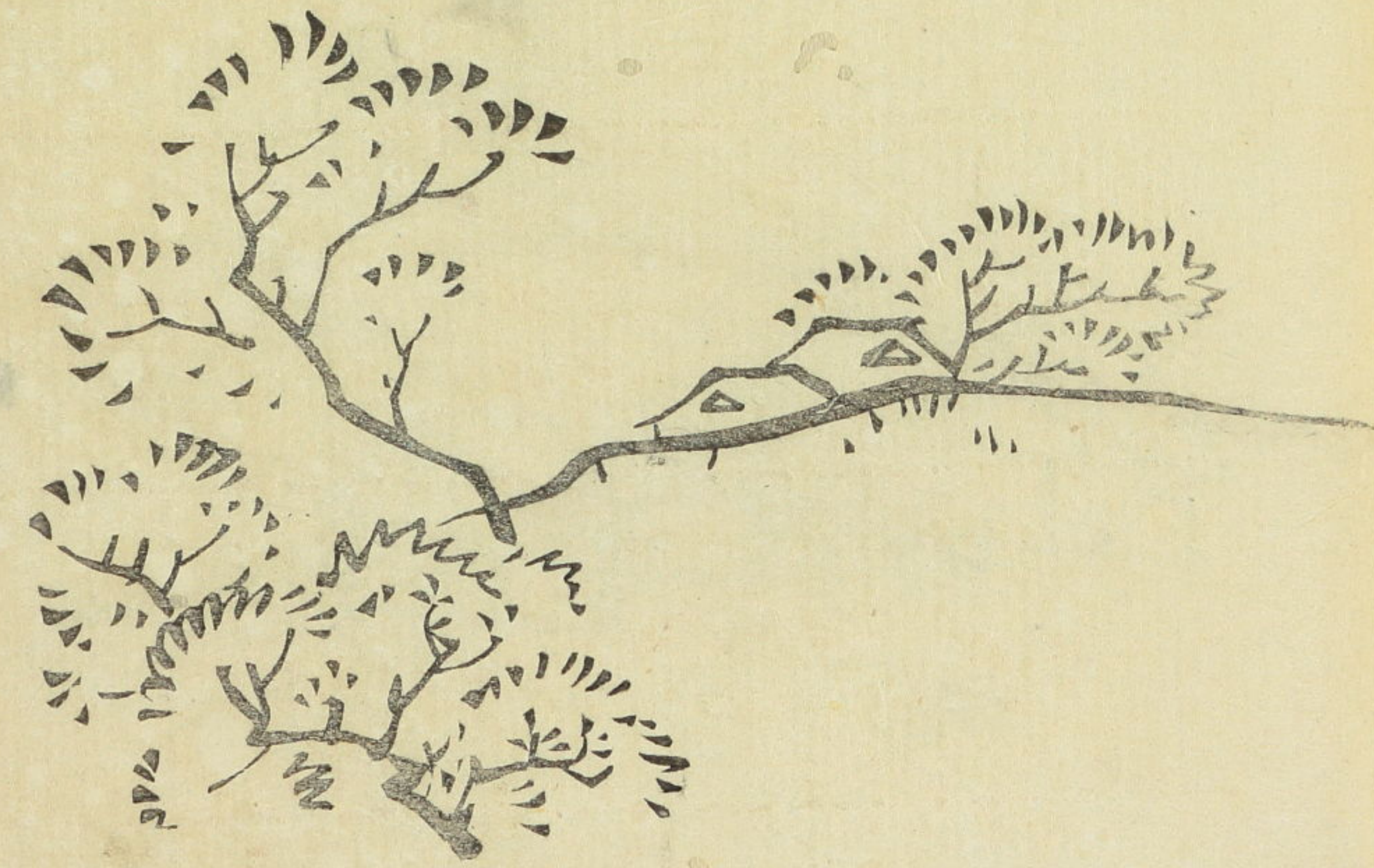
春のさきもなほさき

○

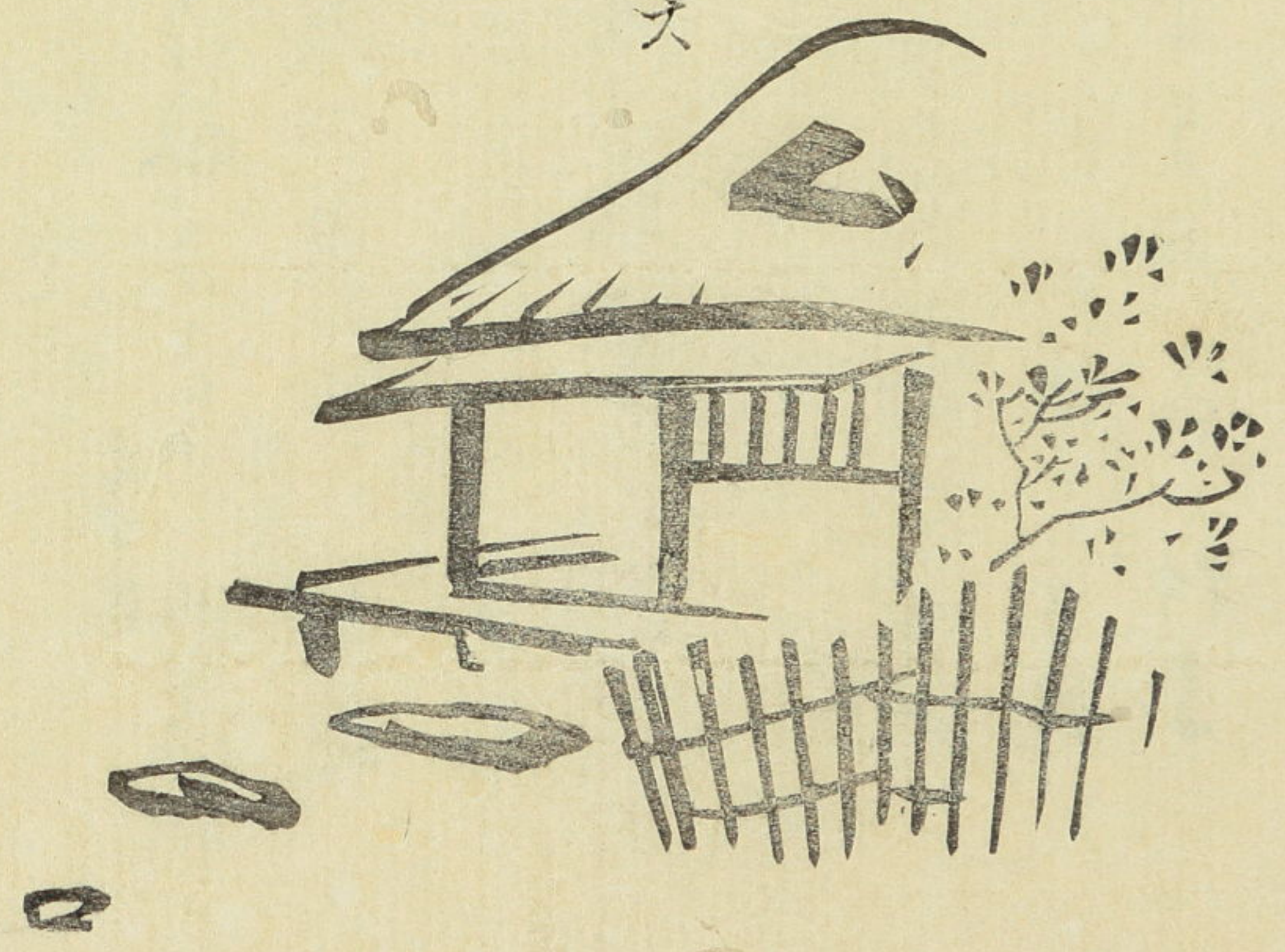
子のつれは梅のさきもなほさき
 あつきのさきもなほさき
 春のさきもなほさき

洗
 杉

鳴りゆく白蝶
 糸の針は
 心ゆく魂
 携り
 入る
 唯
 水瓶



空の月
 月
 定種
 未契
 水瓶



甲乃上島

梅里

志川くまむら

きりぎりす 定後

きりぎりす

日南も

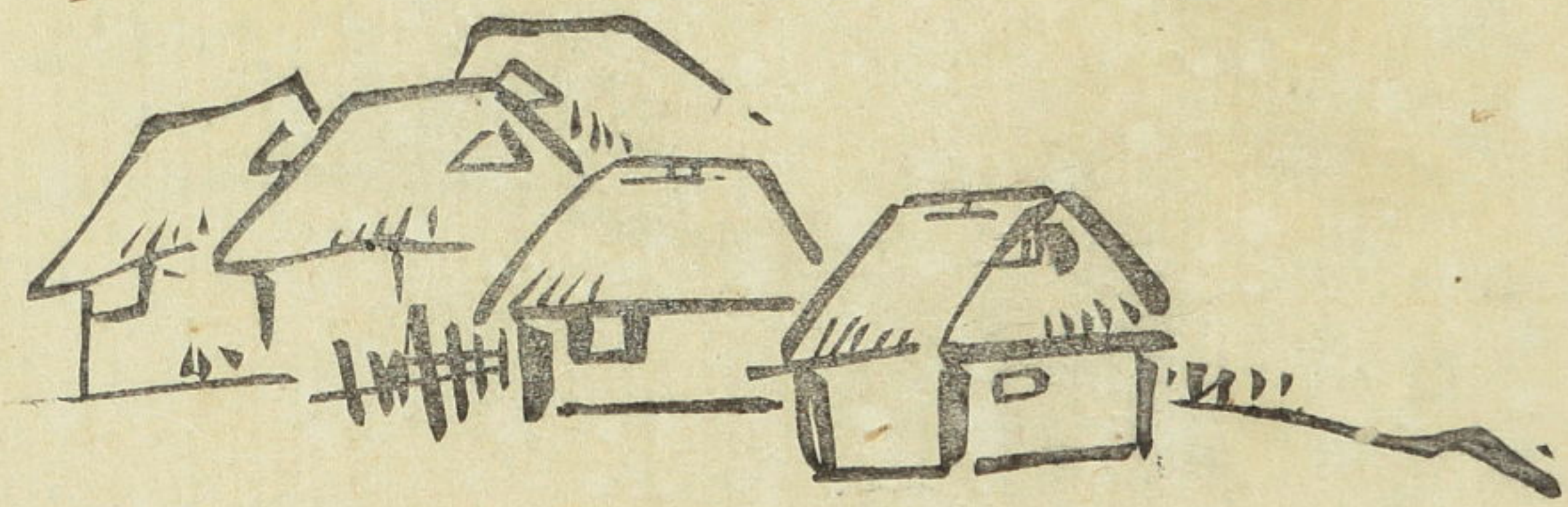
うしろも

浪山

つらね柳が

尻のあそび

きりぎりす



きりぎりす

馬亭

きりぎりす

きりぎりす

きりぎりす

きりぎりす

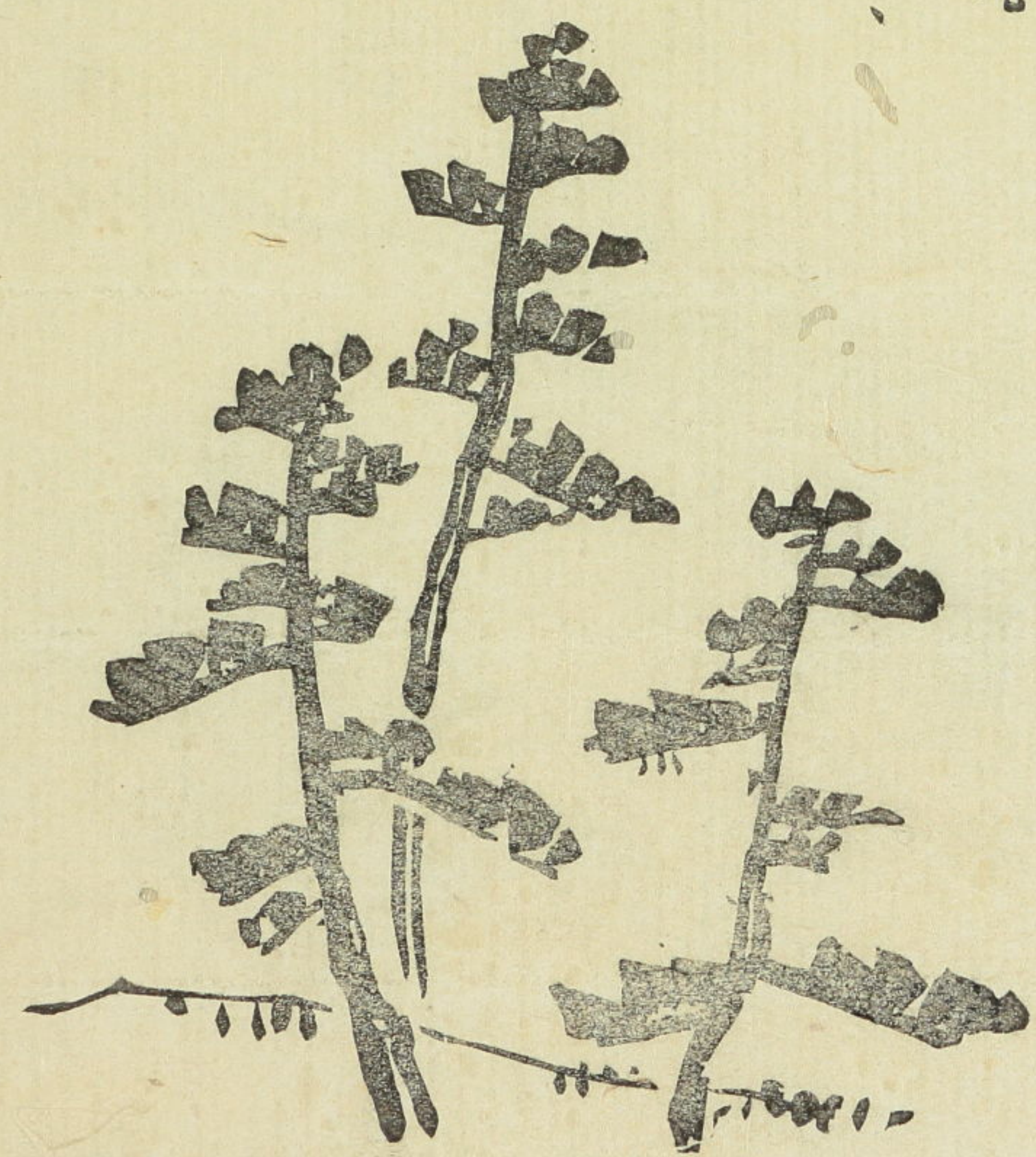
きりぎりす

きりぎりす

きりぎりす

きりぎりす

きりぎりす



イセトミ

成子

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち



あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

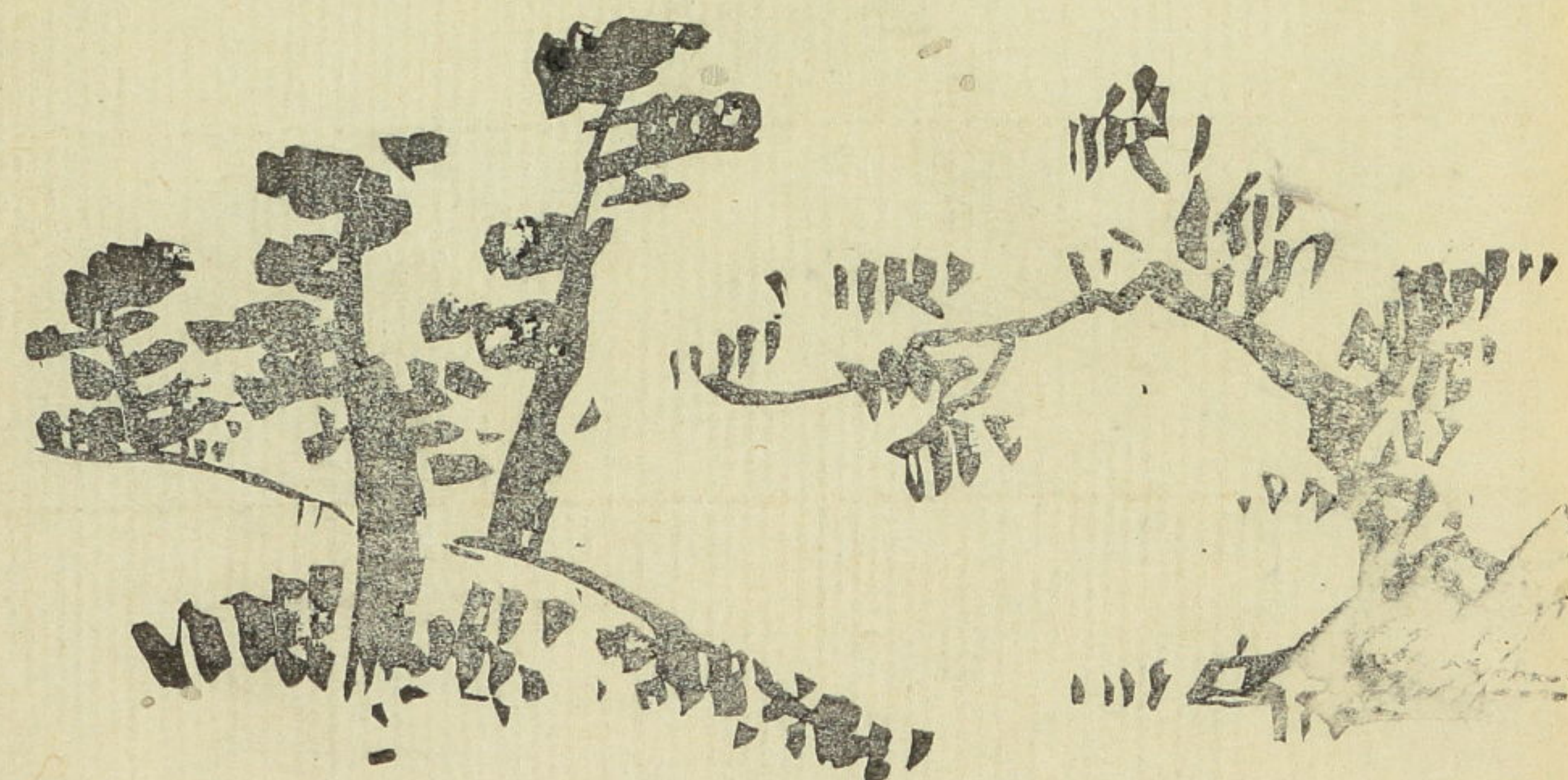
あつち

あつち

あつち

あつち

あつち



夕暮る

野

あまのこ

夜乃白

夕暮る 定程

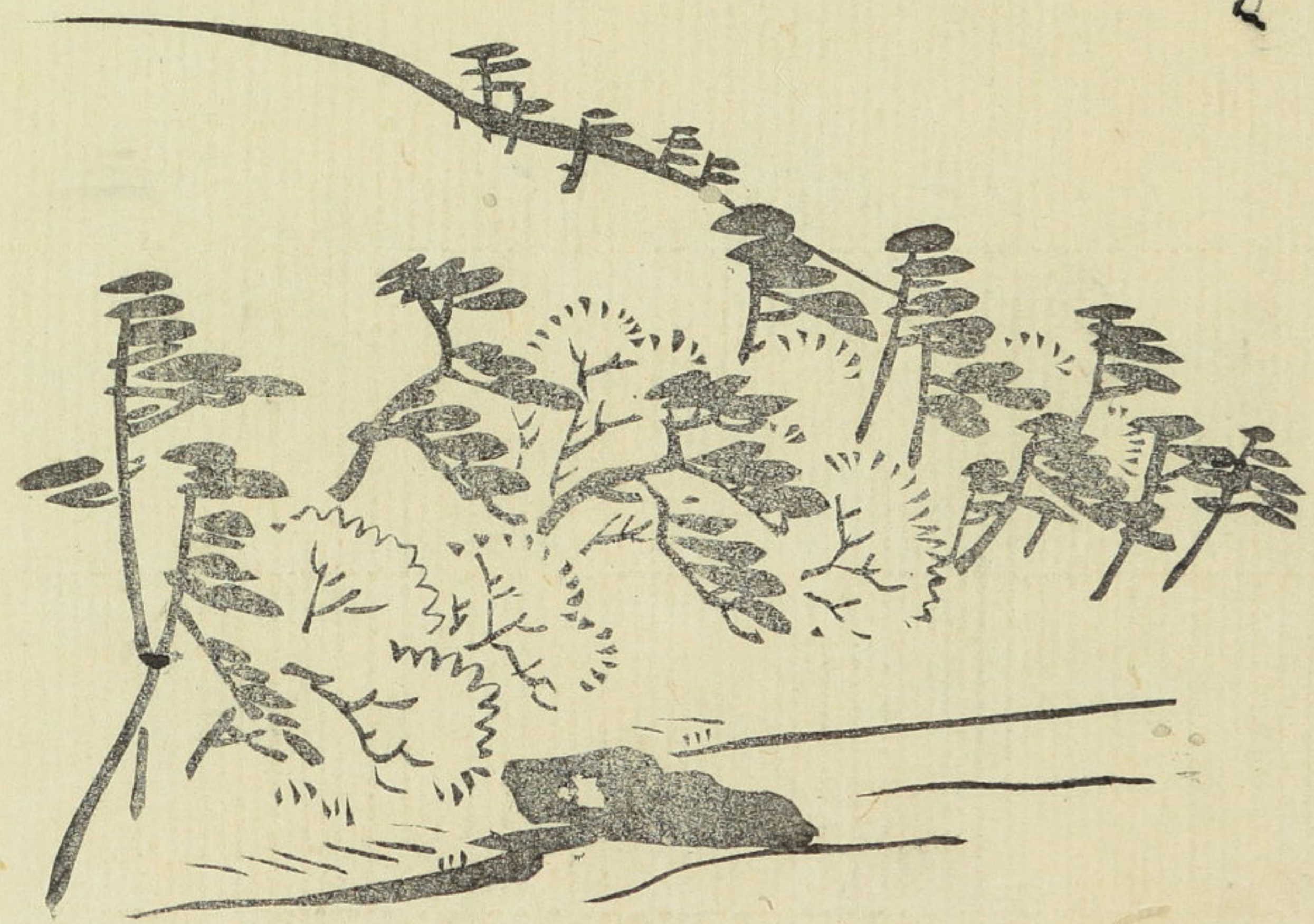
夕暮る 十六

夕暮る 貨僕

あまのこ

あまのこ

あまのこ



○

朝さくらみさきぬくきふのま 巴沓

心をたす枝よあまのこ 一畑

小猿 長佳

○

野のやき 梅優

あまのこ 宮二

あまのこ 素直

梅枝のあまのこ 蒼地

○

川野くつさくはあそひつう
橋脚とさるくわ中へ急あり
川底流るく志賀の集り也
月峰
活周
月居

○

仁あまふふある時よそくま
名月ハありふあふ初日ハ
本ねんくし
若差
活周
定柱

ほく山 橋

○

まきハハの草のい
糸あてんまのし
枕さくやのい
まのあまのあまのあ
けく
下あ
才雅
寛巖
持之
桂信

○

西ふくしふ一時馬の鞍
富士のや裾野ハなる乃也
狂
活周

新仙の歌

未加

さるものさし ながるるのさるもの

定程

すつのもろいこもろい月夜

草州一歩の歩を男高帽子ききく

契

あふののびるま又ふりかへ

有向の待りありそまき方おち

程

えつ十斗をうるのね

○

梅のさるる

定程

朝のさるる

晴るる

御階の長う

あま

余月

さるる

晴のさ

はるる

さるる

あま

う

さるる

さるる

ま

さるる

あま

す

さるる

あま

た

さるる

あま

ぬうりて	さうりて
あまのちりぬ	おん衣きて
あやたき	病をえさく
柳の葉む	月をむく
志れりや	石あけ

救入るる御経書
佛經の考した

早ゆかり	ふたやうあけな	善公成
人まはらそ	すまをたらう	みくらまはら
やう目も	あまのまか	神引くも
あはさゆみ	寿のゆくまは	やぬ入る
やうちうし	ゆよのなほり	あまあうた
あつひはま	あひてあふ	あしり

おたまたま

のまま

草花

かきん

きんぎょ

ひがし

祇園

りやう

せき

二日

やう

うき

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

ふたつとね

孤松

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

とあもあー

きせんぢりす

とんひらる

ふかーいー

まふ君の件

○

を家のまの軒へ入るはうられつ ヨト 交ま

初まの夜くまへてくまのまの ま 木

くくまのまのまのく ま 木

○

けいりやまお入るもふまのま 百地

房のまのまのまのまのま 路園

まのまのまのまのまのま 定推

口一り

まのまのまのま

あまのまのまのまのまのま つら

かろくくくくくくく ま

舟のまのまのまのまのま ま

あまのまのまのまのまのま 又

ゆもまのまのまのまのま ま

自在のまのまのまのまのま ま

松風のまのまのまのまのま ま

静 ま まのまのまのまのま ま

静 ま まのまのまのまのま ま

志はくもく紫はくま
 代肺をまぐく一日世に乃のれ
 意の中かまぐく為余切ひく
 半種く山おたぐくや意ん無厚も
 音た向よ高ぬふ月
 熱くの解てひまうはく崎ひやし
 切ま小平の江形似せはく
 糸の雨種を上野の侍草ら
 春くくくくくくくくく
 体若れ毛髪もくくくくく
 地種 水地種 水地種 水地種

さく揺くくくくくくく
 角ふまのすもはくくくく
 麦埃くく村ま風下
 笑何きぬぬほふふ本中くくく
 きれきもくくくくくく
 舟くくくくくくくくく
 付候くくくくくくく
 うく捨て能くくくくく
 小神くくくくくくく
 夕月くくくくくくく
 水地種 水地種 水地種 水地種

有髪の借り髪を思ふ事もし
 杖を束ふみのめらりありし種井は
 菜乃乃自い市 務を漏す
 因歩ハ持引控へ 走るまるり
 健しくは系を 岩根 杉子
 ありし向ふ多く印は海邊まとまり
 光目おな久かりし 春
 等、水、池、桂、

俳諧歌仙

月舟をさるもすく 亥美如浦
 痔をくくと棄つを途
 長明、子七日燈む 庵建く
 采も二合り酒ハみ合
 月の如しハ馬の奴となり
 子心ハ死系を 子能のきく
 角力元女 戒名村をあはれまる
 紙活のうまいにたり信
 米雀やく 不街らりてまりし
 種、僕、持、僕、

貨僕

定種

笑ふく 嬉しく かく 泣く
うぶ 鐘 鳴き せき づき 虫 文 ね ぬ くに
こころ しく しく しく しく しく しく しく
この ころ 涼し しく しく 月 も あり
泣く 祠 を あり する 村 中 の あり
れ せ ぬ しく しく 桶 の 底 あり しく
ふ の せ ぐ の あり しく け しく
白 中 しく あり しく しく しく しく しく
さ しく しく 維 子 の あり しく しく しく
浪 蕪 の 又 去 け しく しく しく しく しく

僕 侍 僕 侍 僕 侍 僕 侍 僕 侍 僕 侍

賣 喰 しく しく しく しく しく しく しく
あ しく しく しく しく しく しく しく
け や しく しく しく しく しく しく しく
あ しく しく しく しく しく しく しく
酒 川 の 舟 七 日 あり しく しく
小 車 あり しく しく しく しく しく しく
い しく しく しく しく しく しく しく
さ しく しく しく しく しく しく しく
新 蕎 麦 煮 しく しく しく しく しく しく

種 僕 種 僕 種 僕 種 僕 種 僕 種 僕 種 僕

あ しく しく しく しく しく しく しく
あ しく しく しく しく しく しく しく

地くもやういふ如く拂ふも一

柱

雁の書る如く羽の合せ也

素却らちよたふく百里まうらう

一時うーかた風名と夕や

禊の禊をあらぬ 針家男

僕

雲は埃ぬいふ 浪鷗

何もの能走ゆかむる乃花

桂のありくうらひまうらう

